

# 栃木県家畜改良増殖計画の概要

## 策定の趣旨

- 家畜改良増殖法に基づき、国が策定した令和17年度を目標とする家畜改良増殖目標（令和7年4月公表）に即して、栃木県では乳用牛・肉用牛・豚を対象とした「栃木家畜改良増殖計画」を策定する。
- 本計画を長期的な家畜改良・増殖の指針とし、生産現場での家畜の選抜や飼養管理などの指導に活用することで、県内畜産の一層の振興を図る。

## 【本県家畜改良の将来像】

- 家畜の遺伝的能力の向上による生産性・収益性の高い畜産経営の実現
- 消費者ニーズに応える畜産物の安定供給
- 新たな技術の活用や改良手法の高度化による効率的な改良・増殖

### 現状と課題

- ◆飼料高騰や需要の低迷
- ◆農家の高齢化や後継者不足による生産基盤弱体化への懸念
- ⇒更なる生産性向上や省力化による経営の改善が必要

#### [乳用牛]

- ・分娩後の疾病発生等により、生涯生産性が引き出せておらず、泌乳成績の向上も十分ではない。
- ・体型の大型化により機械設備等の活用が十分ではない。

#### [肉用牛]

- ・子牛の生産効率が向上していない。
- ・素牛の能力等を生かした効率的な肥育生産が十分に進んでいない。
- ・多様化する消費者ニーズに応じた畜産物の生産が図られていない。

#### [豚]

- ・繁殖性に係る改良の停滞や肢蹄の弱さなどから子豚の生産効率が向上していない。
- ・豚熱の発生に伴う殺処分により、改良にも影響が生じている。

#### [共通]

- ・生産現場において、遺伝的能力評価の活用が定着していない。
- ・規模拡大により、飼養管理等に伴う労働時間が増加している。
- ・気候変動に伴い、増体や泌乳量の減少など生産性が低下している。

### 乳用牛

### 目指す姿

- 生涯生産性の高い牛群の確保
- 品質と生産量の両立
- 省力化につながる牛群の整備

### 肉用牛

- 繁殖性の改善
- 肥育効率向上
- 需要に応じた牛肉生産
- 優良繁殖牛群の効率的な確保

### 豚

- 子豚生産効率の向上
- 母豚の長期供用
- データを活用した飼養管理改善

### 共通

- 遺伝的能力評価を活用した効率的改良
- 飼養管理等の省力化
- 気候変動に影響を受けない生産性

### 改良増殖に向けた取組

- ◇長命連産性（繁殖性・耐久性等）や泌乳持続性の向上につながる改良
- ◇バランスの良い乳量・乳成分の改良
- ◇肢蹄の改良、搾乳ロボット等設備に適した改良
- ◇牛群検定成績の活用による飼養管理の改善
- ◇分娩間隔等、各個体の遺伝的能力に関するデータを活用した繁殖雌牛の選抜
- ◇早期の枝肉重量確保・歩留りの改良
- ◇多様化する需要に応じた能力向上や生産手法に係る選択枝の提示
- ◇受精卵移植を活用した繁殖雌牛の改良・確保
- ◇繁殖・肥育一貫経営の推進
- ◇母豚1頭当たりの生産頭数や育成率の向上
- ◇出荷日齢の短縮や出荷体重を増加
- ◇強健で肢蹄が強く、飼養環境に適した改良
- ◇と畜場で収集した疾病等の情報を活用した飼養管理等の改善
- ◇遺伝的能力評価の普及と生産者への理解醸成
- ◇スマート機器等の導入や効率的な活用支援
- ◇暑熱対策技術の推進や設備の導入支援、暑熱耐性など新たな形質に着目した改良

### 改良増殖目標

#### [乳用雌牛の能力に関する主な目標]

	R5（現状）	R17（目標）
乳量	8,541kg/年	10,000kg/年
総飼養頭数	54,000頭	52,500頭

※乳成分は維持

#### [繁殖雌牛の能力に関するの主な目標]

	R5（現状）	R17（目標）
歩留基準値	74.9	76.6
分娩間隔	13.6か月	12.5か月
総飼養頭数	84,870頭	92,000頭

※枝肉重量は早期増体を目標、脂肪交雑は維持（肥育期間 R5：28.5か月齢 ⇒ R17：27か月齢）

#### [母豚・肥育豚の能力に関する主な目標]

	R5（現状）	R17（目標）
年間離乳頭数	24.2頭/母豚1頭	27.5頭/母豚1頭
出荷日齢	184日	180日
出荷体重	114kg/頭	120kg/頭
総飼養頭数	299,800頭	400,000頭

※豚熱の発生によりR2～R5に10万頭殺処分